# まほろん通信

VOL.30
（平成20年10月1日発行）
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂一里段86
TEL 0248-21-0700（代）
FAX 0248-21-1075
URL http://www.mahoron.fks.ed.jp

## まほろん実技講座「親子で土笛づくり」

土笛（つちぶえ）は縄文時代の中頃には作られていた吹口１個だけのシンプルなもので、穏やかな音色（ねいろ）を奏でます。８月２日に開催された実技講座「親子で土笛づくり」には５組の親子が参加され、いにしえの音色を求めてマイ土笛づくりにチャレンジしました。

土笛はシンプルな構造のわりには作るのが結構大変です。うまく作らないと「笛」の命の音が鳴りません。笛は中空の構造なので、同じ大きさのおわん形の粘土あるいは皿形の粘土を２つ貼り合わせて作ります。この貼り合わせの作業が第一の難関。同じ大きさのものを２つ作るのに四苦八苦。でも、何とか貼り合わせまで到達。貼り合わせた部分がわからないように表面を丁寧に磨き、いよいよ吹口づくりです。これが第二の難関。道具を使って吹口を開け、試し吹きを繰り返しながら吹口まわりを薄く削っていきます。この段階で音が出ないと焼き上がっても音は出ません。でも、やっと音が出るようになって一安心。最後に表面に模様を付けて完成です。

この日は土笛のほかに土鈴も作り、作品は８月23日に野焼きしました。

なお、この講座の様子はＮＨＫテレビの昼のニュース（地方版）でも紹介されました。

## 体験学習

梅雨明けから本格的な夏を迎えるころになると、木々や草花の緑はいっそう際立って、植物の生命力の高まりが感じられます。この時期、私たちのご先祖様は身近な植物を上手に利用しています。今回は、そのような植物を、‘衣’に関連する２つの実技講座の体験の様子とともにご紹介したいと思います。

### 実技講座「カラムシから布をつくろう」

実施日：7 月 5 日・19 日、9 月 6 日

この講座は、縄文時代の遺跡から見つかった布の断片資料を参考に、同じ原料、同じ方法で布づくりを体験するもので、３回連続となっています。

＜カラムシの刈り取りのようす＞

夏になると、なんとなく館内が青臭いように感じられる方もいらっしゃるのではないでしょうか？この講座では、実際にまほろんの敷地からカラムシを刈り取り、皮を剥いで繊維を取り出します。その青臭さが匂いのもとですが、講座とともに夏のまほろんの定番となりつつあるようです。

今回は､宮城県の新聞記事に掲載されたこともあり、県外からも多くの方々に参加していただきました。小千谷縮や越後上布に代表されるカラムシを原料とした着尺は、通気性がよく適度なしゃり感があり、高級な夏物として昔から大変重宝されてきました。少しでも和装に関心のある方には、その原料となるカラムシは特別な植物となっているようです。終始にわたり、参加者の皆さんの熱心な態度が大変印象的でした。

しかし、カラムシは決して特別な植物ではありません。木綿の栽培技術が普及する以前は、一般的な日常着はカラムシなどの麻系のものから作られました。一口に麻といってもいくつも種類があり、カラムシもそのひとつです。正倉院に残される麻系の献上布のほとんどがカラムシであったことからも、昔から私たちの生活に馴染み深いものであったことがわかります。

### 実技講座「古代の染色にちょうせん」

実施日：８月９日　午前・午後

昨年度に引き続き、平安時代の『延喜式』の記載を参考にタデアイの生葉染めを行いました。

タデアイは春先に種を蒔き、秋の初めにはピンク色の花を咲かせます。そして夏の間には、花や実をつけるため､栄養分を蓄えた葉をたくさん茂らせています。その時期の葉は乾燥させると青く変色しますが、その青の色素が昔から染め物に利用されているのです。

講座では、薄手の絹のスカーフに簡単な絞りを行って模様染めを行いました。まるで夏の青空のような浅葱色の染め上がりです。参加者の皆さんはスカーフを手に、自然と笑みがこぼれます

＜染め上がったスカーフを手にして＞

## 秋の館長講演会

今年度の館長講演会は「もう二つの日本文化－北海道と南島の文化－」をテーマに６回シリーズで実施しています。後半は以下の３回を予定しています。

**10 月 25 日（土）第４回「”南の文化の成立と展開」**
**11 月 22 日（土）第５回「ボカシの地域とは」**
**12 月 20 日（土）第６回「グスクとチャシ」**

（各回ともに時間は、午後 1 時 30 分から 3 時 30 分まで、場所は当館講堂）

高度なテーマを一般の方々にもわかりやすい内容で解説いただく講演会となっています。

是非、ご参加ください。

＜１回目の館長講演会＞

## 企画展案内

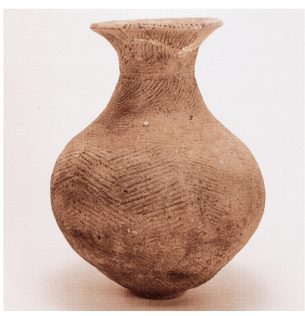
**ふくしまの重要文化財Ⅵ**
**考古資料：石川町鳥内遺跡**

**期　間:平成 20 年 10 月４日（水）～ 12 月７日（日）**
**場　所：まほろん特別展示室**
**共　催：石川町教育委員会**

今回の秋のてんじでは、石川町の鳥内遺跡の資料を中心にご紹介します。

鳥内遺跡は、昭和 45 年に発掘調査が行われ、弥生時代の「再葬墓」と言うお墓が多数見つかりました。再葬墓とは、遺体を土葬して白骨化させ、それを再度壺に入れて葬ったお墓で、東日本の弥生時代はじめのころに特徴的なお墓です。

再葬墓からは、多くの弥生土器が見つかっており、91 点が福島県の重要文化財に指定されています。今回は、その中でも特徴的な土器 33 点を展示します。



**＜東海地方の土器＞**

土器の中には、東海地方で作られ数百キロの道のりを旅して、運ばれたものがあります。当時の地域間の交流を示す貴重なもので

**＜再葬墓のようす＞**　　資料提供：石川町教育委員会

す。また、西日本の弥生時代前期の影響を受けた文様をもつ土器も見つかっており、当地方の弥生時代の開始を知る上で貴重な資料となっています。

また、須賀川市牡丹平遺跡の弥生時代の再葬墓から見つかった人骨とそれが入っていた土器もあわせて展示します。人骨は成人女性のもので、抜歯の痕跡がみられ縄文人の特徴を持ったもので、東日本の弥生人の成り立ちのヒントを与えてくれるものです。

この他に、福島県の代表的な再葬墓の遺跡について、写真パネルの展示を行います。

多くのみなさまのご来館をお待ちしています。。

## 夏まつりのようす

７月 12 日（土）、13 日（日）の２日間、開館７周年記念イベント「まほろん夏まつり」が開催されました。

古代３種競技「まほリンピック」や古代の魚釣り、しのぶもちずりに挑戦など多彩なメニューで、700 名を超えるみなさまにご来館いただきました。

まほリンピックでは、午前中が練習の時間で、午後から白熱した競技が行われ、上位３名の方には表彰状と記念品が贈られました。また、来年も是非実施してほしいとの声が多く聞かれました。

古代の魚釣りでは、鹿角の釣針での釣りのむずかしさを体験していただけました。

**＜まほリンピック２日目表彰式＞**

## まなびピアふくしま 2008 のご案内

**期　間：10 月 11 日（土）～ 10 月 15 日（水）**
**場　所：ビックパレットふくしま**

郡山市のビックパレットふくしまをメイン会場に、に「第 20 回全国生涯学習フェスティバルまなびピアふくしま 2008」が開催されます。

当館でも、秋のてんじと実技講座「埴輪づくり」が参加事業となっています。また、この期間中、メイン会場で行われる「生涯学習体験広場」に出展します。内容は、竹の鏃を使った射的体験と古代製鉄に使う踏みふいごを踏む体験の２つを実施します。

是非、ご参加ください。

**＜竹でつくったやじり＞**

## 文化財研修

### 民俗芸能の見方と楽しみ方（無形の文化財研修）

8月24日に福島県文化財保護審議会委員の懸田弘訓先生を講師にお招きして無形の文化財研修を実施し、県内から35名の参加者がありました。

講義では民俗芸能の基本的な見方を、県内を代表する神楽や田楽、獅子舞、念仏踊などの映像を通して、わかりやすく解説していただきました。また先生の「民俗芸能は本来見るものではなく、踊る人自身が楽しいと感じるものでなくてはならない」という考えから、講義終了後、エントランスホールで、受講生全員が実際に踊りを体験しました。演目の「会津磐梯山（かんしょ）踊」を、音楽に合わせて、本当に楽しく踊っていました。受講生からも「次回の研修も今回のような楽しい研修にしてほしい」との感想が多くよせられました。

民俗芸能をはじめとした無形の文化財は、現在急激な少子高齢化にともなう後継者不足などにより、存続の危機に直面しているものも少なくありません。先

＜無形の文化財研修のようす＞

祖から受け継がれてきた地域の貴重な文化財である民俗芸能が次の世代へと受け継がれていくためには何よりも、地域住民、社会全体の理解がなければと思います。まほろんでは無形の文化財も当館の大きな柱の一つとしていることから、無形の文化財研修を通して、微力ながらもその発展に貢献していきたいと考えています。

## シリーズ収蔵品紹介７

### 玉川村観音山遺跡出土の鬼瓦

福島県南部の玉川村岩法寺地区観音山遺跡から出土した鬼瓦です。平成元（1989）年度に福島空港建設に伴って観音山に所在する観音堂とその付属施設の移転が計画され、試掘調査・発掘調査が実施され、平安時代から現代に亘る多種多様な遺構や遺物が発見されました。調査以前には、現地に福島県唯一臨済宗鎌倉建長寺派白華山巌峰寺の奥院である観音堂が建立されていました。

玉川村岩法寺地区には国の重要文化財である「五輪塔」をはじめとして、古代末から戦国時代にかけて活躍した石川氏関連の史跡や六堂七院の伝承が数多く残されています。このことから古来から仏教文化が花開いた地区と考えられます。

この鬼瓦は解体した観音堂の下から破片の状態で出土し、復元したものです。江戸時代後期（18世紀前後）頃には、観音堂を中心に馬堂・子安堂・鐘楼・石垣・手水池が配置され、観音堂は屋根瓦が葺かれていたと

＜鬼　瓦＞

考えられます。同時に当時使用した陶磁器（会津本郷焼や相馬大堀焼など）が出土しています。鬼瓦は和式建築物の屋根の棟端などに設置される板状の瓦の総称です。鬼と略して呼ばれることもあり、魔よけと装飾を目的とした瓦です。江戸時代後期の観音堂屋根に大きく飾られ、観音堂を含めて麓の集落を守っていたことでしょう。

## まほろんからのお知らせ

### 餅つき大会が近づきました

今年も大詰め。12月7日（日）は恒例の餅つき大会があります。また、ボランティアイベントも予定され、楽しい企画が盛りだくさん！

是非、遊びに来てくださいね。

### ご利用案内

| | |
|---|---|
| 開館時間 | 9：30 ～ 17：00（入館は16：30まで） |
| 休 館 日 | 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしＧＷ・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～１月４日） |
| 入 館 料 | 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。） |
| そ の 他 | 団体（20名以上）でご利用の場合は，事前にご予約ください。 |